

令和6年度 学校関係者評価委員会 報告書

1. 開催日	令和7年5月27日(火)		
2. 時間	15時～16時30分		
3. 場所	鹿児島工学院専門学校 2階		
4. 出席者	【委員】 敬称略 一般社団法人 鹿児島県電設協会 会長 春山 建 一般社団法人 鹿児島県電設協会 副会長 山ノ内 元治 一般社団法人 鹿児島県自動車整備振興会 技術教育部長 平野 学 鹿児島ダイハツ販売 株式会社 常務取締役管理本部長 徳 浩之 一般社団法人 鹿児島県建築協会 事務局長 井手之上 浩幸 株式会社 東条設計 常務取締役 東條 浩明 社会医療法人緑泉会 法人本部 人事統括部 副部長 白石 俊 南国交通 株式会社 取締役 管理本部 部長 有村 和洋 【学校教職員】 校長 村田 直志 教頭 永野田 純一 事務長 亀甲 章蔵 教務部長 吉田 大悟 広報部長 貴島 浩昭 電気技術工学科科長 橋口 俊平 自動車工学科・1級自動車工学科科長 伊東 良浩 建築デザイン科・建築士専攻科科長 横山 陽一 ライフデザイン学科科長 南迫 絵理 建築デザイン学科／議事録 西 利一郎		

発言者	内容
村田	開会挨拶 本校 校長より挨拶
永野田	学校概要のうち以下について説明 ・修学支援新制度について
亀甲	令和6年度 就学支援制度の実績について
貴島 各学科長	学校概要のうち以下について説明 ・設置学科の説明 学校概要のうち以下について見学 他 ・校内施設見学及び各学科授業見学
永野田	令和6年度における自己点検・評価 令和6年度の自己点検評価について、評価が低い項目について (2) 学校運営 6.情報システム化等による業務の効率化が図られているか (3) 教育活動 10.関連分野における先進的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか (3) 教育活動 11.教員の資質向上, 指導力向上のための研修等が行われているか (5) 学生支援 4.学生の健康管理を担う組織体制はあるか

	(5) 学生支援 6.親元を離れている学生の生活環境への支援は行われているか (5) 学生支援 8.卒業生への支援体制はあるか (5) 学生支援 9.高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか (6) 教育環境 1.施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか (6) 教育環境 2.実習施設、インターンシップ、国内研修等について十分な教育体制を整備しているか (8) 財務 2.予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか (10) 社会貢献・地域貢献・・・についての評価が低かった。 点検項目は4段階評価としており全51項目ある、そのうち12項目の評価が3未満となった。
貴島	(2) 学校運営 6.情報システム化等による業務の効率化が図られているか 情報システムについては、2年程前から学校の共有ファイルを外部サーバーへ変更したことにより効率的に情報共有を図れるようになった。ネットワーク等の改善も実施しているが、細かな部分で情報化が進んでいない部分もあることから評価が上がらなかったのではと予想する。今後、企業からのアドバイスも頂きながら学校の情報システムがさらに効率化できるように進めていきたい。
橋口	(3) 教育活動 10.関連分野における先進的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 電気技術工学科では、鹿児島県電設協会及び九州電機管理技術者協会のご協力をいただき外部講師制度による授業を取り入れている。学生からの授業に関する要望等聞き取りを行い、教員間で情報共有を図りながら資質向上の取組を行っている。
伊東	関連分野における先進的な知識・技能等を習得するために自動車工学科では、各ディーラーに來校頂き技術研修を行っている。教員の指導力育成については、整備主任者講習を教員も受講し教員間で情報共有し知識向上を図っている。今後も協力頂けるディーラーの技術講習に参加しながら資質向上を図っていきたい。
横山	建築系学科では教員も新しい知識を得た状態で教えることが望ましいと考えている、教員自身も資格取得や講習等の参加をし、資質向上に取り組んでいる。
春山委員	今各学科の説明を頂いたが、現状評価向上につながっていないという認識で良いか。 企業側も学校側と連携して一緒に取り組めるものであれば、ご提案頂き検討していきたいと思っている。電気科では、天文館イルミネーションの実習が今年度から実施されないため、何か代替え案等も提案していただきたい。
山ノ内委員	教職員の皆さんの自己評価が厳しすぎるのではないかと。色々な取組をされているのにも関わらず評価が低いので、内部で評価水準の見直しをする必要があると思う。
永野田	職員の評価が厳しい部分はあるかと思う。全51項目ある中で上がった項目は、6項目しかなく、下がった項目は、35項目ある。次年度は、教職員間で事前に評価基準のレクチャーを再度行い評価基準の共通理解に努めたい。

平野委員	自己評価のレベリングをしたうえでの評価なのか。
永野田	各学科でそれぞれ変わってはくるが、4 学科分の評価を精査したものとなり統一することが難しいのが現状ではある。
平野委員	私は自分の分野しかわからないが、設備や先生方の質も存じ上げていると思う。 先生方に不満があるか、わざと厳しくしているのかとしか思えない。
村田	評価の水準を統一できるよう、自身の評価を厳しくしすぎることが無いよう協議していきたい。
永野田	悪いところばかりではなく、良い点についての報告。(4) 学修成果 3.退学率の低減への取り組みが適切に行われているかという点について、休退学者が昨年度はゼロであった。職員が学生の細かい部分をフォローしてくれている結果ではないかと思う。
有村委員	入学後の職業選択のミスマッチにより、退学者がいることを他校で聞いたことがあるが、退学者をゼロにするために先生方で具体的にどのような取り組みをされたのか教えてほしい。
橋口	昨年、精神的に不安を抱えている学生が在籍していた。その学生と二者面談や三者面談を行い、学校生活や就職、資格取得について相違がないように確認を行い、クラスの様子を観察した。クラスでも、その学生が困っていたら周りが助けてあげられるような環境づくりを行った。担任一人ではなく、副担任や学科の教職員間で連携を取りながら助けてあげられるような環境づくりを行った。
吉田	学生の精神的な支援が必要だということで、本校では4名のヒヤリング職員を配置し、学生が相談等を行いやすい環境づくりを行っている。
平野委員	先生方の精神面が心配。先生方が自身の精神状態をどのように維持しているのか。
橋口	担任一人が負担するのではなく、副担任も含め学科の教職員や他の学科の教職員とも情報共有しながら対応しているので、その中でストレス発散もできている。
伊東	教職員間でしっかり情報共有を行っていることに加え、職員同士余暇を楽しむ等ストレス発散をしている。
東條委員	(5) 学生支援 8. 卒業生への支援体制はあるかについて精神的にケアが必要な学生も在籍しているということで、学校だけではなく企業側も同じ悩みを抱えていると思っている。その対策として、4名のヒヤリング職員を配置しているとのことだが、就職した学生に対しその学生の特性を把握することができないまま入社し、他の学生と同じような指導を行ってしまった結果、精神的に病んでしまったり、退職をしてしまう学生が多いように思う。我々企業側も学校に対してフィードバックをしていきたい。学校側にも卒業した学生の近況を聞くなどして、学校と企業側が連携を取りながら精神面のケアができるよう検討願いたい。

山ノ内委員	企業の場合は、メンタルチェックを定期的に行うことが義務化されているところもあって、定期的にチェックをして診断結果によっては適切な専門医を通じてケアをしているが、学校ではスクールカウンセラーなど設置してはいないのか。
村田	兄弟校では、専門の職員を配置しているが、本校は現時点では在籍していない。教職員で対応しているが急務であるとは認識している。
山ノ内委員	二者面談、三者面談を企業側も実施しているが、対応を間違えると余計悪化する場合もある。今後そのような精神面でのケアが必要な学生が増えるようであれば専門の先生の相談窓口等があったほうが良いと思う。
村田	専門医に診てもらう必要がある学生もいると思う。今後の課題として検討していきたい。
春山委員	昨年も実習室が狭いと聞いているが、具体的に対策を行っているのか。
村田	限られたスペースの中で運営しないといけないので厳しいのが現状。
橋口	電設協会から工具を寄贈してもらっているので充足した実習ができるように取り組んでいる。学生が狭いと感じないように人数の配置に配慮して実習を行い工夫しながら対応していきたい。
伊東	自動車工学科の場合は、現在は1級過程の4年生がインターンシップで不在だが、インターンシップから学生が戻ってくると場所を考えながら実習をしている状況。また、機材の消耗等もあるため購入や入替えも学校と検討していきたい。
横山	建築は、入学時に一人一台ノートパソコンを購入してもらっている。BIMやイラストレーターなど容量が重たいソフトをダウンロードする際にネットワークの通信状況が悪い。現在、通信環境の改善にも取り組んでいる。
徳委員	自動車業界は整備士不足が深刻。メーカーの支援等も積極的に相談してほしい。学生にコミュニケーション能力を求めるだけではなく、我々も勉強しないといけない。従業員が発言しやすい環境を作るために外部の相談窓口を設置し、QRコードで読み取ってアンケート形式で回答できるようにしている。そのフォローを社外団体でできるようにしている。対応も大変だが教えてもらわないとわからない。できることは協力させて頂くので企業側にも相談してほしい。学校側には、人材育成の一旦を担ってもらっているのだから共に協力しながらやっていきたい。
平野委員	学生支援で苦勞している点を教えてほしい。
亀甲	学校では、保健室を配置しているが保健員が在籍していないため対応が難しい場合がある。親元を離れている学生もあり、踏み込んで介入するのが難しいのが現状。評価が低い点として、掘り下げて生活の部分までヒアリングできていない部分もあると思う。

村田	限られた教職員で対応しているため、支援が行き届いていないと感じている学生もいることと予想する。今後の検討事項としたい。
永野田	5. 閉会挨拶 本校 教頭よりご協力いただけたことの感謝も含め、挨拶

※本議事録は、本校ホームページ上に掲載